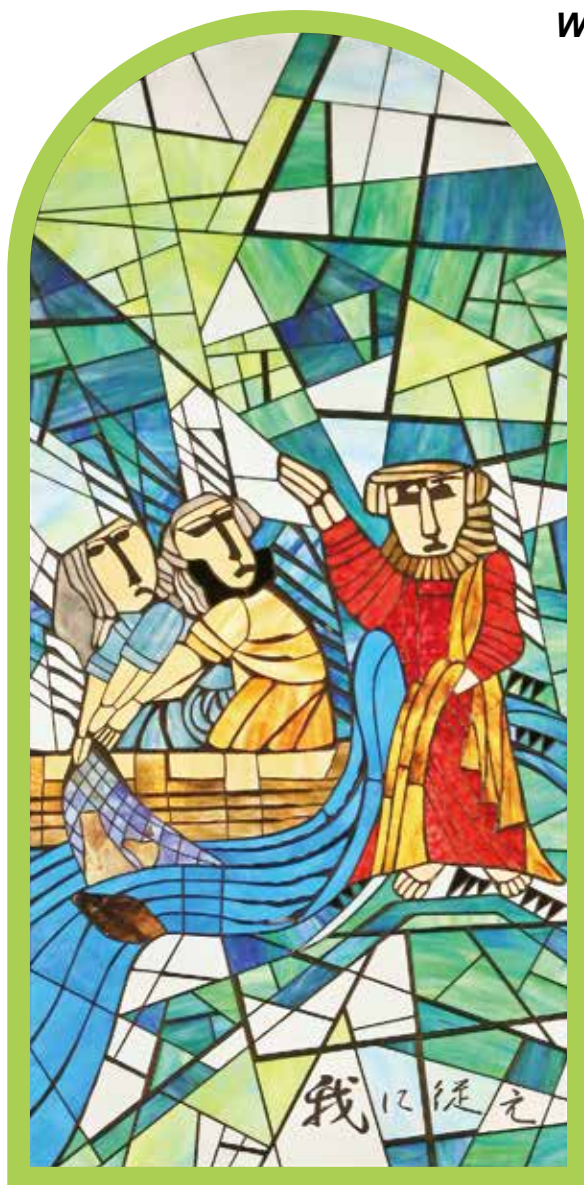


SEQUIMINI ME

セ ク イ ミ ニ メ

No.47

WINTER 2014



桃山学院大学チャペル・ニュース

目 次

| | | | |
|----------------------------|------------------------------|-------|----|
| 巻頭言「クリスマスツリー」 | チャブレン 松平 功 | …… | 1 |
| 桃学大チャペル附属聖歌隊で活躍しよう!! | | …………… | 2 |
| 「アーサー・ホーランド氏の講演会を受講させて」 | | | |
| | 社会学部准教授 石川 明人 | …… | 3 |
| キリスト教講演会の感想 | 社会学部3年 今井 康介 | …… | 4 |
| | 国際教養学部4年 中井 彩乃 | …… | 4 |
| | 法学部4年 佐々木智之 | …… | 4 |
| | 社会学部3年 嶋田 愛 | …… | 5 |
| 聖書の花園 (30)「えにしだー希望の木か」 | | …………… | 6 |
| | 金城 盛紀 (本学元文学部教授・神戸女学院大学名誉教授) | | |
| 「大学近くの教会から：クリスマスメッセージ」 | | | |
| (1) 日本バプテスト教会連合 和泉中央キリスト教会 | | | |
| | 竹井 祐一牧師：「あなたの希望」 | …………… | 8 |
| (2) 福音交友会 岸和田北聖書教会 | | | |
| | 栗原 純一牧師：「暗やみの中に輝く光」 | …………… | 10 |
| キリスト教センターからのお知らせ | | …………… | 12 |

聖書の言葉

「初めに言^{ことば}があった。言^{ことば}は神と共にあった。言^{ことば}は神であった。この言^{ことば}は、初めに神と共にあった。万物は言^{ことば}によって成った。成ったもので、言^{ことば}によらずに成ったものは何一つなかった。言^{ことば}の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。」

(新約聖書・新共同訳、ヨハネによる福音書1：1～5)

表紙：日本聖公会大阪教区 聖アンデレ教会

桃山学院中学高等学校聖アンデレ礼拝堂 スタンドグラス『我に従え』



「クリスマスツリー」

チャプレン（大学付牧師） 松平 功

イエスは言われた。「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。」
（ヨハネによる福音書 6章 35節）

桃山学院大学では毎年、イルミネーション点灯式が使徒聖アンデレ日（11月30日）に最も近い金曜日に行われています。皆さんにキャンドルを配り、聖歌隊の歌声と共に皆で聖歌を歌い感謝の祈りを唱えた後、吹奏楽部のファンファーレに続いて巨大な2本のもみの木の電飾が輝きます。今年は電飾が真っ白なLEDライトになり、よりいっそう美しいクリスマスツリーがまばゆいばかりの光りを灯しています。

皆さんには、クリスマスツリーについて知っていただきたいことが2点あります。ひとつ目は、クリスマスツリー電飾やオーナメントが、皆さんの先輩である大学同窓会や、保護者の方々が集う教育後援会からの温かい寄付で行われているということです。ご自分達の後輩や、あるいは子ども達に美しいクリスマスツリーを見せて心を和ませてあげたいという優しさの表れなのです。どうぞ、感謝の気持ちを抱きながらまばゆく灯るクリスマスツリーを見上げてください。

そして、もうひとつ知っていただきたいのは、クリスマスツリーが一体何を表しているのかということです。クリスマスツリーの起源については諸説あるそうですが、ドイツで始まったと一般的に言われています。クリスマスツリーとして針葉樹に飾りつけをする習慣はかなり昔から各国でちらほらとあったようなのですが、クリスマスツリーに明かりを灯すのは、16世紀に宗教改革で有名なマルチン・ルターが始めたと言われています。ちな

みに、本学で使用されているチャイムの音は、このルターの作詞作曲した「神は我がやぐら」ですので憶えておきましょう。

さて、クリスマスツリーの灯りに戻りますが、クリスマスイブに行われた礼拝から帰宅途中のルターが森に続く道を歩いていた時に、その森の木々やその枝の間から見えている無数に光り輝く星を見て、それがまるで木々にくっついて光っているように見えたそうです。ルターは、そのあまりの美しさにいたく感動しました。この美しい光景を子ども達にも何とか見せてあげたいと考えた彼は、庭にあった木にローソクを取り付けてそれを灯したのです。現代人のわたし達からすれば、危険極まりない行為に思えるのですが、これが後にドイツに広まっていくのです。そして、後付けになるのですが、その灯火をこの世の闇を照らす真の光であるイエス・キリストを、比喩的に表していると考えようになっていきます。

また、クリスマスツリーにはリンゴやパンも飾られていました。これについても諸説あるそうですが、リンゴについてはエデンの園のリンゴであるとか、赤い色が十字架につけられたイエス・キリストの血の色であるとか言われているそうです。また、パンはイエス・キリストが命のパンであるという意味を持っています。これは、少し説明を加えなければ難しいのですが、旧約聖書の中で神がイスラエルの人々に天から「マナ（マンナ）」と呼ばれるパンを降らせて養うお話しが登場するの

ですが、イエスは自分自身がその天からのマナであると新約聖書で語るのです。これは、イエスの教えを信じることで、本当の意味で生きる者となるというたとえです。そして、クリスマスツリーの一番先に飾るトップスターと呼ばれる星は、イエス降誕の場所を導いた星を表しているのです。また、クリスマスツリーに針葉樹林を用いるのは、冬でも青々としている針葉樹林に永遠の命を与えるイエス

への信仰を重ねたからだと言われています。

結論として、クリスマスツリーはイエス・キリストそのものを表しているのです。ただ、これは受け取る側の問題ですので、単純にきれいだと思うだけでもいっこうに構いません。ただ、クリスマスツリーの美しさの中に本質的な意味があって、それが表現されているということを知識として、また大学生として知っておいてください。メリークリスマス！

聖歌隊員大募集!!

+ 聖歌隊って？

- ◎ 桃学大カラーのガウンを着て、入学式や卒業式、そしてその他もろもろで合唱する団体です。



+ 聖歌隊に入ると何か良いことある？

- ◎ チャペルに所属している聖歌隊なので、部費や活動費などはありません。
- ◎ 部室はキリスト教センター内の広い部屋なので、教室からも近い。
- ◎ 練習は週に2～3回なので、アルバイトとのかけもちもOK！
- ◎ プロのボイストレーナーから指導を受けるので、メキメキ上達するかも。
- ◎ 部室には、自分専用の個人ロッカーが使えるよ。
- ◎ 聖歌隊や合唱の経験がなくても入れます。
- ◎ クリスマンでなくても当然OK！

ホームページは、桃学大の施設、キリスト教センターから入れます。

<http://www.andrew.ac.jp/ch-choir/index.html>

桃学大チャペル附属聖歌隊で活躍しよう!!

○ キリスト教講演会 ○

10月17日（金）、アーサー・ホーランド氏による講演会が本学チャペルで開催されました。社会学部の石川明人准教授がキリスト教の受講生を振替授業として参加させていただきました。以下に石川師のコメントと受講生の感想を掲載させていただきます。

「アーサー・ホーランド氏の講演会を受講させて」

社会学部 准教授 石川 明人



多くの日本人は、キリスト教という宗教に対して、やや偏ったイメージを持っているかもしれない。日本のドラマなどでクリスチャンが登場するときは、妙にマジメで、地味で、野暮ったい人物として描かれることもある。だが、今回本学にお招きしたアーサー・ホーランド牧師は、それと正反対である。彼は自ら「不良牧師」と名乗り、サングラスをかけ、レザージャケットを着て、大型バイクを乗りこなす、実に型破りな牧師なのだ。外見が個性的なだけではない。彼の説教は、ユーモアに溢れ、熱く、

温かく、優しい。古典文学の一節をそらんじてみせたりしながらも、よく人を笑わせてくれる。牧師という以前に、一人の人間として魅力的なのである。今回の講演会で、学生たちは、それまでもっていたキリスト教に対する堅苦しいイメージを修正したことであろう。この経験が、広い視野と寛容の精神をもってさまざまな人や文化に接する「世界市民」の名にふさわしい態度の形成につながっていくことを期待している。



【社会学部3年 今井 康介】

今日のアーサー・ホーランドさんの講演を聴いて、それまで「牧師」という職業の人に対して持っていたイメージが大きく変わった。

僕は大学で合気道部に所属しているのだが、この部の師範を務めているのは、元桃山学院大学のチャプレンで現在も牧師をされている人だ。その師範はまさに聖職者と呼ぶにふさわしく、初めてお会いした時に「優しそうなおじいさん」という印象を受けたので、それが僕の中の牧師のイメージとなっていた。しかしホーランドさんは全く違っていった。自ら不良を名乗る牧師がいるということに衝撃を受けた。

ホーランドさんのお話はとても面白く、考えさせられるものが多かった。一番印象に残ったのは「俺の教会は、この大地と空のすべて」というお話で、不良牧師というおそらく前例のない存在のホーランドさんならではの表現だと思った。ホーランドさんの話を聴いて、人間に型はなく、自分で思い行動すればどんな存在にでもなれるのだと感じた。今日のお話をこれからの人生に活かして、いろいろなことに挑戦していきたい。

【国際教養学部4年 中井 彩乃】

アーサー・ホーランド氏の講演会に参加した。63歳とは思えない、黒のレザージャケットにジーンズ姿。すらっとした体型だ。今も週5でジムに通って鍛えているそう。すごくワイルドである。アーサー氏のメッセージは全てが力強く、共感できるものであった。

まず我々は、彼のことを特集したテレビ番組のVTRをみた。日本縦断時の映像だ。3年前の還暦時のもので、現在はアメリカ大陸を横断している途中だということから驚きである。彼がかついでいる十字架は大きかったが、重さはどれくらいなのだろうか、などと思いながらVTRは終了し、いよいよ本人が登場、講演が始まった。

アーサー氏は話す内容を決めていなかった。というのも、彼は、話は自然に内から湧き出すものだと考えているからだという。だからこそ、その話には確かに偽りのない本音や魂の叫びがあったように感じた。牧師だが、牧師のイメージをくつがえす「自分」をもって

いる人だと感じた。『異端のスズメ』という本を読んだことがある。それによれば、社会から少し離れた、異質な人物が革命を起こしてきたという。アーサーもそうしたひとりなのではないだろうか。人に強い影響を与える彼のイメージからそう感じた。自分の経験からいろいろなことを学び、それをユーモラスに語る彼に、これまでどれだけの人が心を奪われてきたのだろうか。私もそのひとりである。

私は前の方に座っていたため、何度か彼と目が合った。勘違いかもしれないが、そう思うようにした。彼へ共感する部分はたくさんあった。アーサーは自分がA型の天秤座だと何回も言うので、もしやと思ったら、誕生日は私と2日違いで、これもまた驚いた。彼は日米のハーフだということなので、日本の文学や日本人の心性に共感もっているようで、私も見習うべきだと感じた。もちろん日本人として誇りをもっている。しかしまだ知らないこともたくさんある。彼から学んだことは、もっとたくさんの本を読み、自分の信じるものをはっきりさせようということだ。自分の弱さを受け入れること。そんな時にこそ人は強くなれる。これは、牧師かどうかではなく、人間性という点で見習うべきだと感じた。

しかし、やはり彼は牧師なのだあらためて思ったのは、「信じること、とにかく相手を信じること」と言っていた点だ。慈愛に満ちた、まさにキリストを尊敬している彼の言葉だと思った。私は今回の講演会で多くのことを学び、一方で、今自分のしていることを信じようと思った。人生は長い。多くのことを学んできたアーサー氏から、この大学生という時期にお話を聞くことができよかったです。これも神のお導きであろうか。先生にも感謝します。

【法学部4年 佐々木智之】

まず、講演会のはじめにVTRが上映された。不良牧師アーサー・ホーランドが十字架を背負い、日本列島を縦断するというものだ。南は沖縄から、北の北海道まで十字架を担いで歩くというものだ。60歳のおじさんにそんなことが可能なのだろうか。私は生暖かく見守った。するとどうだろうか、あれよ、あれよという間に、北海道まで辿り着いてしまった。

しかも、寒いのに、鍛えている体のラインを見せたいという理由で薄着なのが最高だ。ゴール手前には沢山のファンが出迎えをしており、アーサー・ホーランドと共にゴールまで歩み、見事縦断を成功させてしまった。私は恐れ入った。そして、とても胸が高鳴るのを感じた。彼は、ただのナルシストおじさんではなかったのである。

そして、いよいよアーサー・ホーランドご本人の登場である。黒いハットに革ジャン姿。ここに楽器を持ち込んだら、ロックミュージシャンのライブへと早変わりしてしまいそうだ。しかし私は、事前のVTRにてアーサーの雄姿をみているので安心して構えた。そしてアーサーは語りだした。「グッドアフタヌーン！ 昼もアーサー！ 夜もアーサー！ アーサー・ホーランドです！」本当に大丈夫であろうか。私は少し心配になりつつ話を聞き続けた。だが、しばらくすると、一生懸命に話を聞いている私がいた。アーサー・ホーランドは、その生い立ちや、さまざまな経験談を語るのだが、それがとても為になるものばかりだ。時折はさまれるジョークがまた絶妙で、聞いていて少しも飽きなかった。

一番印象に残っている言葉は「人生あきらめず、ゆっくりでもいいから一歩ずつ目標に向かって進めばいい」というもので、私はこれに感銘を受けた。私はこれからの人生、心にゆとりを持ち生きていこうと思った次第である。

【社会学部3年 嶋田 愛】

まず、アーサー・ホーランドさんの、サン・テグジュペリの『星の王子さま』に感動したという話に共感できた。私もこの本が好きで、表現力の素晴らしさに惹きつけられたのである。本当に大切なものは目に見えない、ということを教えてくれる本なのだ。素晴らしい表現力というのは、観察力の鋭さと繋がっているというのはよくわかる。アーサーさんは、この講演会で、心に響く沢山の言葉を残していった。普段の自分の行動と重ねてみたり、過去の自分のことに重ねてみたりすることによって、考えさせられる部分が多くあった。

アーサーさんによれば、知識以上に大切なのは知恵であり、知識は人を高ぶらせること

もあるという。そして、感動することを忘れない人は、どんな状況においても生き延びられるとも話した。無関心・無感動・無気力ではダメなのだ。しばしば、無感動なただの知識から、現実とかけ離れたことや、ほぼ不可能に近いようなことを理想として語っているだけの人が多いように思う。自然界は、万冊の本を読むよりも、私たちに沢山のことを教えてくれる。本から得られる知識だけでなく、自然から得られるものは多くある。全ての宗教のルーツは自然。自然を見て感じ取り、学び取ることができる。見える自然界の背後に、見えない大きな力があるのだ。また、ピンチはチャンス、絶望は希望への窓口である。試練に遭った時は喜べば良い。それが生きている喜び、チャレンジする喜びに変わるのだ。

また、アーサーさんによれば、自信以上に大切なのが喜びであるという。みんな心のなかでは泣いているのに、顔では笑っている、というアーサーさんの言葉には非常に共感できる。この言葉は、現代社会に生きている人々をあらわしているように思う。いくら辛いことがあっても、友人・知人などの前では弱さを見せずにいたり、平気で嘘をついたりして、本音と建前を使い分けている。嬉しい時は笑い、悲しい時は泣くのが良い。悲しみが大きい人ほど、その背後にある光は大きい。春夏秋冬を感じるDNAが日本人にあるように、喜怒哀楽という心にも四季がある。ありのままの自分を受け止めることが重要なのだ。また、一歩一歩進めば夢に近づくことが出来る。一歩ふみ出すことによって出会いがある。何も行動を起こさずにいると、何も始まらないし、出会いもないのだということは、自分も体験したこともある。

人を信じるからには裏切られる可能性も十二分にあるが、それでも信じることは素晴らしい。私は、人間不信で、なかなか人を信じることができないけれども、少しずつでも人を信じられるようになりたいと思う。

アーサーさんが言っていた「あなたが居ることで、どれだけの人が幸せか」という言葉に強い感銘を受けた。「人生が、あなたにその意味を問うているのだ。あなたが存在していることそれ自体が尊い」という言葉も素晴らしいと思った。

えにしだ — 希望の木が

きん じょう せい き
金 城 盛 紀 (本学元文学部教授・神戸女学院大学名誉教授)



えにしだ (White broom, *Retama raetam*) はマメ科レタマ属の灌木で、ローテム、シロレタマとも呼ばれる。中東の砂丘、砂地に自生するこの植物は、荒れ野で日陰を作る唯一の灌木となることが多い。春先には葉を落とした枝に白い花が咲き、周辺を美しくする。根は長く (20メートルになるとの主張もあり)、地中に深く伸び水分を得て、乾燥に耐える。そのような根や幹で上質な木炭がつけられた。日本語訳や英訳聖書には (おそらく他言語訳にも) 誤訳も含めているような名称が付けられているが、現在はこの灌木であるというのがほぼ定説となっている。マメ科エニシダ属 (Common broom, *Cytisus scoparius*) との混同もある。

預言者エリアに木陰

彼自身は荒れ野に入り、更に一日の道のりを歩き続けた。彼は一本のえにしだの木の下に来て座り、自分の命が絶えるのを願っ

て言った。「主よ、もう十分です。わたしの命を取ってください。わたしは先祖に勝る者ではありません。」彼はえにしだの木の下で横になって眠ってしまった。

(列王記上 19 : 4-5)

エリアは古代イスラエルの預言者。彼は「ただ一人、主の預言者として残った (列王記上 18-22) が、バアル (メルカルト) を崇拜しヤーウェ礼拝の根絶をねらうアハブ王の妻イゼベルに脅迫されて、荒れ野を逃げる。疲労困憊し、絶望的になって預言者の責務も忘れ、エリアはえにしだの木ノ下でへたばる。荒れ野で木陰をつくるのは高さ2-3メートルに伸びる灌木えにしだである。この木陰は奇跡の場となる。

エリアがケリトの川ほとりに身を隠した際にも、鳥が食物を運んでくれた。荒れ野のえにしだの木の下には天使が食べ物と水を与える。エリアは力づけられて40日40夜歩き続けて神の山オレブに着く (同8節)。モーセの40年の荒れ野の旅を想起させる。オレブは出エジプト記などではシナイと呼ばれ、モーセが「十戒」を与えられた山である。

えにしだの根は食べられるか、暖をとる薪炭材か

あかざの葉を摘み
 れだまの根を食糧としていた。

(ヨブ記 30 : 4)

「神に守られていたあの日々」 (ヨブ記 29 : 2) から不幸のどん底にあえぐようになったヨブは、今や卑しい若者たちにさえ馬鹿にされる。ヨブを嘲笑う若者たちは、「荒涼とした砂漠や

沼地をさ迷い」(同 30-3) 飢え、衰える。あかざ(同定困難だが、通常は食べない砂漠の植物)の葉や「れだま」と訳されているえにしだの根まで口にする。このような羊の番犬とさえ比べられないほど卑しい連中にもヨブは卑しめられる。

ところで、新共同訳の「れだま」という植物名は文語訳(表記は古風だが)や口語訳と同じである。岩波訳も「レダマ」とカタカナにしているが同様に「種名はシロレマダ」と注して、「えにしだ」であることを示している。しかし NRSV、NIV、NEB を含め英語訳では broom となっている(欽定訳は juniper)。つまり、上掲の列王記上に出る「えにしだ」は英語版では「れだま」と同じ broom となっていて、同一の植物であるとしている。下記の詩篇に出る broom も同じ「えにしだ」である。聖書で 3 回しか言及されない同一の植物の名称を新共同訳が 1 回異なる訳語にする理由が理解しにくい。一般の読者には異なる植物と誤解される。聖書学者も惑わす(「この木がくえにしだ」にせよくれだま」にせよ…」という注が『新共同訳旧約聖書注解』に見られる)。

えにしだの根は食べたのか、暖めるための薪炭にしたのか、これは意見が分かれる。口語訳などでは「身を暖める」としている。

えにしだの根はかたくて食べられないし、有毒であるとの指摘もある。新英語訳聖書(NEB)では、食用にしたのは「多分えにしだの根についた fungus(真菌類の菌、キノコなど)である」と注を付している。岩波訳はえにしだの根が食べられないという知識を利用して、「飢えた人は何でも口にすることを誇張」と注している。ひとは飢餓に瀕すれば食えないのも食う。

えにしだは火矢にも

勇士の放つ鋭い矢よ

えにしだの炭火を付けた矢よ。

(詩篇 120:4)

詩篇 120 篇より 134 篇までは「都に上る歌」

である。エルサレムの神殿へ上る人々の歌であるが、それは天上の都、天なるエルサレムを志向して生きるという意味のメタファー(隠喩)となる。この世においては、おしなべて人生は苦難の歩みである。「偽って語る唇、欺いて語る舌」(同 120:2)の攻めから免れない。しかし、山上の説教は教える—「義のために迫害される人々は、幸いである」(マタイ 5:10)。助けを求める人々に応えて、偽り欺く者どもに神は鋭い矢をもって報復する。強烈で火もちのよいえにしだの火を矢先にした矢をもって。矢先に火を仕掛けたこの火矢は、殺傷するだけでなく城や館などに火をつける強力な武器であった。

詩篇 64:4-5 では、悪を行う者は「毒を含む言葉を矢としてつがえ隠れた所から無垢な人を射ようと」する、とある。矢を「毒を含む言葉」のメタファーとしているが、偽る唇・欺く舌に対して火がついた鋭い矢で報いるこの見事なメタファーは、「雄々しく戦われる主」(同 24:8)にふさわしい。

日本が太平洋戦争に突入する直前の昭和 16(1941)年秋、矢内原忠雄は戦争ムードのなか、非愛国者、不敬罪といった「実に虚偽の非難は矢よりも鋭くわがたましひをを刺す」と述べて慨嘆した。矢内原は東大を辞任させられていたが、敗戦後には復帰し、総長に選出された。



「大学近くの教会から：クリスマスメッセージ」

クリスマスメッセージ(1)



日本バプテスト教会連合
和泉中央キリスト教会
竹井 祐一 牧師

テーマ：「あなたの希望」

(ルカ 2 章 1 節～7 節から)

「クリスマスおめでとうございます！」クリスマスはおめでたいとき。そして登場する人々は、日本風に言えば「おめでたい人たち」だ。羊飼いたちは仕事をそっちのけでやってきて赤ちゃんを見て喜んでいるし、博士たちはわざわざ苦労して宝物を届けに来るし、そしてヨセフとマリヤは大変な苦労があるのに救い主の誕生を受け入れた。報われないという意味でおめでたい人たちだ。

本題に入る前に少し状況を説明する。ヨセフとマリヤが今いるナザレから住民登録のために向かうベツレヘムは直線距離で120km、山の道を通れば距離は短い、安全を考えると一端10km以上下ってヨルダン川の近くの道を通り、またエリコという街辺りで10kmほど山のほうに入る。道もまっすぐではないし、結果的に200km近くあっただろう。何日もかけての徒歩での旅だった。ロバを連れていても荷物用なので人は歩いていることが多かった。一つの街から一つの街まで丸一日歩かなければならないこともある。当時野宿は野獣や盗賊がいて危険なので、どうしようもないとき以外はしなかった。しかもマリヤは身重なので当然速く進んでいくことは難しい。ヨセフもマリヤを助けながらであるので一人で進んで行くよりもずっと負担が多かった。すばらしい目的のために進んでいるのなら頑張ろうと言えるが、頑張っても得するようなことがあるわけではない。楽しい旅ではなかった。

1) 突然のこと

ヨセフとマリヤにとっては大きな問題が起こった。結婚前にマリヤが身籠っただけでも大変なのになんと生まれ故郷に帰って住民登録せよと皇帝から命令があった。

私たちが問題に対して焦ってしまうのは、それが突然やってくるからだ。来るとわかっているタイミングでなら心の準備もできるが、いきなり起こることに焦ってしまうし、動揺してしまう。

僕は車を運転していて渋滞になるとイライラする。当たり前だが渋滞は突然やってくる。そして一緒に載っている妻にも八つ当たりをしてしまう。妻には何も関係ないのに。突然の出来事に私たちは焦ってしまうがそれもまた神さまのタイミングで起こってくることを意識したい。動揺すると言われても動揺するものだが、背後に神さまの存在を意識しよう。

「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」

(新改訳聖書・ローマ人への手紙 8 章 28 節)

この言葉は物事がうまくいくから神さまを信じようというものではない。たとえうまくいなくても神さまへの信頼をもって言う言葉だ。

2) 周りの都合

繰り返すが、ヨセフとマリヤがベツレヘムに行くのは皇帝の命令だった。自分たちに得になることは何もなく、皇帝が権威があるからということで偉そうな一方的な要求だった。腹が立つけれど逆らうこともできない事柄だった。さらにベツレヘムに着いても誰も歓迎してくれるわけではなかった。ヨセフとマリヤにしてみると問題の上にさらに問題が起こってきた。神さますら呪いたくなるほど立て続けに問題が重なっている状況である。

私たちがよくあることではないだろうか。

ひとつのことで精一杯なのに、さらに大きな問題が起こってくる。いい加減にしてくれと言いたくなる。そういうときは心に余裕がなくなってしまう。

僕は団体の理事に選ばれて、会社で責任を持っている方々の気持ちが少しわかった気がする。自分の苦手な分野で批判をされ、自分と直接関係のないことで謝り、次々とクレームがやってくる。心に余裕がなくなっていく。ますます聖書の言葉を自分のものにしなければと思うようになった。

「あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。」 (詩篇 119 篇 105 節)

ヨセフとマリヤはまさに大変な状況にあり、イエスさまはそのような状況の中に産まれて来られた。それこそ人間のイライラしている感情の中に産まれて来られた。

私たちがイライラしたり、次々と起こる問題の中でがっかりしたりしてしまうようなときにこそじつはイエスさまは共におられる。イエスさまは人の苦しみの中に生まれてきてくださった。

3) ふさわしい

イエスさまは宿や家で生まれることを許されず、馬小屋で生まれた。赤ちゃんが生まれるにはふさわしくはないがイエス様が生まれるにはふさわしい場所だった。私たちの救い主となる方は私たちの一番低い立場になることが必要だった。上からではなく下から私たちに救う必要があった。それは私たちがすぐに悲しみや苦しみに負けてしまうものだからだ。私たちも受け入れることのできない、絶対に逃げ出したい悲しみや苦しみをイエスさまは背負うために生まれてこられた。そして十字架にかかられた。

長年塾講師をさせていただいている。塾講師の忘年会があった。大学生たちとのらやで鍋を食べた。就活などで特にみんな悩んでいる。僕は彼らに「夢がかなうか、かなわないかが大事ではなく、たとえ失敗したとしても進んでみなければ次に進む道は見えてこない。」と言った。元生徒で講師になった10年くらいの付き合いのある講師に「今までで竹井先生か

らいっちゃんいいこと聞いたわ。」と言われた。今までもいいこといろいろと言ってきていると思うけれど。

私たちはこのクリスマスの時、自分の心にイエスさまをお迎えする思いを持ちたい。しかしそれは私たちの心に余裕があればイエスさまをお迎えするのにふさわしいのではない。むしろイエスさまをお迎えする条件は心が余裕で落ち着いているのではなくて、むしろ心がイライラしたり焦ったり、これからどうしようと思っている闇の中にあるときこそイエスさまを迎えるのにふさわしい。必ず心に光が灯る。ヨセフやマリヤがそうであったように私たちの心がイライラし悩んでいるときにこそイエスさまを迎えるのにふさわしい。私たちの心が力をなくしているときにこそイエスさまをお迎えするにはふさわしい。

結論

イエスさまは私たちの本当の希望である方だ。それは私たちがどんなに悩んでも苦しんでも悲しんでも、そこにこそイエスさまは来てくださる方だから。そしてあなたの心の闇に愛の光を灯してくださる方だから。

「私は苦しみの中に主を呼び求め、助けを求めてわが神に叫んだ。主はその宮で私の声を聞かれ、御前に助けを求めた私の叫びは、御耳に届いた。」 (詩篇 18 篇 6 節)

私たちが悩みの中にいるときに呼ぶべき方がいる。神である方に私たちは叫び求めることができる。イエス・キリスト。まさしくこの方こそ私たちの希望である方だ。今年のクリスマスはイエス・キリストを呼び求めてみてはどうだろうか。



和泉中央キリスト教会

住所：

〒594-0032

大阪府和泉市池田下町79-10

TEL・FAX：

0725-55-7080

ホームページ：

<http://www5.ocn.ne.jp/~izumityu/>

クリスマスメッセージ(2)



福音交友会
岸和田北聖書教会
栗原 純人 牧師

テーマ：「暗やみの中に輝く光」

「光はやみの中に輝いている。
やみはこれに打ち勝たなかった。」
(新約聖書・ヨハネ1章5節 (新改訳))

「暗やみの中に輝く光」これが、クリスマスのメッセージです。

学生時代の思い出

「暗やみに光」と聞くと、思い出すことがあります。大学生時代のクリスマスの出来事です。当時、私が通っていた教会は、とてもロケーションの良い所で、クリスマスイブともなると、方々からたくさんの方が、教会の「聖夜礼拝」にいられました。教会員は礼拝が終わると、数人の有志で、教会の周辺に出かけて行き、クリスマスキャロルを歌いました(キャロリングといいます)。駅前、マンションの前などで「も～ろ～びと～こぞ～り～て～むか～えま～つれ～」などと歌いました。道行く人がこちらを振り向き、マンションに住んでいる方がバルコニーから眺めておられました。

ある年のクリスマスイブ。キャロリングを終えて教会に戻ってきた私は、真っ暗なチャペルの中に人がいるのに気づきました。

「だれだろう?」

チャペルに入ると、そこには、数組の「グループ」がおられました。中に入って見て、わかりました。その「グループ」は、家族、またカップルでした。きっと、クリスマスイブ、食事をした後で「あの教会行ってみようか」とか言って、来られたのでしょう。私は聖夜礼拝で使ったキャンドルに火をつけ、燭台の上において、それぞれの方のところを持っていきました。「どうぞ」

これには、みなさん大喜び。なんだかフライドチキンのコマーシャルのようでした。私は思いました。

「礼拝に来るのはちょっと、という人でも、こういうシチュエーションだったら教会に来れるんだ。よし。こうしよう!」

翌年のクリスマスイブに「作戦」を実行しました。

いつものように聖夜礼拝が終わり、キャロ

リングに出かける前、私はキャンドルと燭台、マッチを受付台の上いくつか残しておきました「ご自由にお使いください」と書いたメモといっしょに。キャロリングを終えてチャペルに戻ってみると

「やっぱりね」

キャンドルに火をつけている「グループ」が、今年も数組おられました。しかし、私の「作戦」はそれだけではありません。チャペルのわきに隣接している牧師室のドアを、そっと開け、ギターを抱えて講壇の前に立ちました。マイクを持ち、

「(小さな声で)こんばんは～～」

目が点になっているみなさん。しかし、かまわず続けます。

「今日は、ようこそ教会へ。今から、何曲かクリスマスの賛美歌を聞いてください」

そう言って、ギターを弾きながら歌いました。みなさん、よく聞いておられました(そう見えました)。途中で、クリスマスのお話(イエス・キリストが救い主で、クリスマスはキリストの誕生日であること)もしました。「最後にみなさんで『きよしこの夜』を歌いましょう!」

OHP(パワポではない。時代ですね)で歌詞を壁に映し出し、三節までしっかり歌い、「これで、クリスマスコンサートを終わります。みなさんお気をつけてお帰りください」

「なんだこれ?」と思われたでしょうが、みなさん、喜んでチャペルを後にされました。

名付けて「ミッドナイトコンサート」は、それから数年、続けて行われました。「暗やみに光」と聞くと、今でも、私はあの学生時代の、あのチャペルの、あのキャンドルの光を思い起こします。初めて教会に来られた方にとっては、あたたかくて、ロマンチックなやさしい光だったことでしょう。

聖書は語る

しかし、聖書が語る「暗やみの中に輝く光」とは、それとは意味が違います。クリスマスは、フライドチキンやケーキを食べて、ロマンチックに過ごすだけではないのです。それも楽しい、うれしいことですが、もっとうれしい感謝なことがクリスマスには隠されているのです。何かというと、クリスマスは、私たちのうちにある「やみ」に光が照らされる時だということなのです。

どんな「やみ」があるのでしょうか?

①なやみ(悩み)です

みなさんの中で「自分には悩みがない」という方がいますか?そんな人、ひとりもないでしょう。人それぞれ思うところは違う。けれども、だれもがみな、悩みを持って生きています。一時的なものであれば良いけれど、すぐに抜け

出せたら良いけれど、ときに、それはまるで、やみに包まれたような気分私たちに追い込みます。そんな私たちの悩み、暗やみをイエス・キリストは照らします。聖書は言います。

「恐れるな。わたしがあなたとともにいる。」
(旧約聖書イザヤ書 41 章 10 節)

ひとつの詩を紹介しましょう。米国、ニューヨーク州立大学病院の壁に書いてあった詩です。

大きなことを成し遂げるために力を与えてほしいと 神に求めたのに
謙虚を学ぶようと弱さを授かった。
より偉大なことができるようと健康を求めたのに
よりよきことができるようと病弱を与えられた。
幸せになろうとして富を求めたのに 賢明であるようと貧困を授かった
世の人の称賛を得ようと成功を求めたのに 得意にならないようと失敗を授かった。
求めたものは一つとして与えられなかったが、願いはすべて聞き届けられた。
神の意に添わぬ者であるにもかかわらず、心の中で言い表せないものは全てかなえられた。私はあらゆる人の中で、もっとも豊かに祝福されていたのだ。

②うらやみ (羨み) です

うらやむこと、人をねたむことです。自分と他人を比較して落ち込むこと。そういう視点で人を見ること。このやみもまた、とても深い。自分が劣っていると思えば落ち込むし、自分が勝っていると思えば優越感にひたる。でもそれはとても不安定で、私たちの心を健康にはしません。そんな私たちのうらやみ、暗やみを、イエス・キリストは照らします。

「わたしの目にはあなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。」(同上 43 章 4 節)

神の目には、あなたは価値があるのです。なぜでしょう？

「わたしの名で呼ばれるすべての者は、私の栄光のために、わたしがこれを創造し、これを形造り、これを造った。」(同上 43 章 7 節)

あなたが、何かできるからではありません。神があなたを造られたからです。あなたは神の栄光を現すために、神によって造られたすばらしい「作品」なのです。そして神に失敗作はありません。「人は自分を認めてくれない

とあなたは言うでしょう。もし、あなたが神のことばを聞くならば、聞き続けるならば、あなたはこの暗やみから解放されるのです。

③くやみ (悔やみ) です

あすればよかった、こうすればよかった、あんなことしなければ、言わなければよかった。今になって悔やまれることがあるでしょう。しかし、時間を戻すことはできません。やり直すことはできないのです。私たちは罪意識を持ちます。忘れたいと思っても忘れない5年前の出来事、いつまでも心に残って離れない10年前のあの日のこと。悔やんでも、悔やんでも、そこから解放されることはない。そんな、私たちの暗やみをイエスは照らします。彼は言います。

「あなたの罪は赦(ゆる)された。」
新約聖書 マタイの福音書 9 章 2 節

あなたは赦されたのです。イエスには根拠がありました。なぜなら、イエスはこの罪、あなたの私の罪を赦すために、私たちの身代わりとなって死んでくださったからです。チャペルの上に立っている十字架とは、イエスがはりつけになった死刑の道具。そんな物騒なものを、なぜ掲げるのか？十字架こそ、あなたのために死なれ「あなたの罪は赦された」と言われるイエスの愛のしるしだからです。神の赦しを受けたならば、あなたはこの悔やみから解放されるのです。

冒頭の聖句に注目してください。

「やみはこれに打ち勝たなかった」

やみはなくなりません。悩み・うらやみ・悔やみは、いつだって、私たちに襲ってきます。しかし、やみは、光であるイエス・キリストには打ち勝てないのです。このようにお祈りしてみてください。

「イエスさま。あなたに、おすがりします。アーメン」

このクリスマス、あなたの心にも光が輝きます。



岸和田北聖書教会

住所：

大阪府岸和田市春木旭町30-3

TEL・FAX：

072-443-1795

ブログ【PC版】

<http://blogs.yahoo.co.jp/nkbc2011>

【携帯版】

<http://blogs.mobile.yahoo.co.jp/p/blog/myblog/mytop?bid=nkbc2011>

※各ブログに表示される企業広告は無視して下さい。

キリスト教センターからのお知らせ



バイブル・ランチに参加しよう！

学期中の毎週火曜日、お昼休み（12：40～13：00）にバイブル・ランチを開いています。昼食を食べながら、聖書やキリスト教のお話をします。メインスピーカーは大学チャプレンですが、ゲストスピーカーがお話することもあります。友人を誘って参加してください。場所は、キリスト教センター集会室です。お菓子や飲物もあります！



チャペルの行事に参加してみよう！

チャペルでは、年2回のキリスト教講演会と年5回のチャペル・コンサートを開催しています。講演会もコンサートも著名な方を招いていますので、参加しなければもったいない！感情の豊かな若い学生時代に、たくさんの素晴らしいお話しや心温まるような音楽など、いろいろなものを吸収しましょう。



チャペルに来よう！

チャペルでは学期中の毎週、月曜日と金曜日に礼拝を行っています。朝の礼拝は8時50分から55分まで、昼の礼拝は12時40分から10分ほどです。（行事やチャプレンの都合などで中止されることもあります）



チャペルは誰でも大歓迎！

チャペルは、夏は冷房、冬は暖房の効いた心地良いスペースです。休憩や授業の合間など、静かに心を整えるのに最適な場所であるといえるでしょう。チャペルは皆さんのお越しを歓迎します。ただ、雑談・喫煙・飲食は御法度なので、ご注意ください。（ペットボトルの飲水もだめです）



キリスト教センター集会室は利用可能です！

チャペルに隣接しているセンター集会室は、予約すれば使用できます。各種セミナーやゼミの集まり、サークルの活動やパーティーなどに利用できます。飲食可です。

† 聖公会とは †

本学の建学の精神は、「キリスト教精神」（自由と愛の精神）です。キリスト教の教派としては英国教会に属しており、日本での教派名は聖公会です。聖公会は、英国宗教改革から始まり、ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカ、アジア、太平洋など世界中の国々に広がり、信徒数7千万人を越えております。このような世界的な組織の中で、日本聖公会は重要な位置を占めています。日本においては約350の教会、約5万人の信徒を擁し、キリスト教の宣教活動に加え、さまざまな教育・医療・社会福祉などの事業を全国各地で行っています。

本学の姉妹校としては、立教、立教女学院、聖路加看護、名古屋柳城、平安女学院、プール学院、松蔭女子学院、神戸国際などがあります。聖路加国際病院、聖バルナバ病院もよく知られています。桃山学院大学は、世界に広がる国際的なネットワークの中で、その一員として、「キリスト教精神」（自由と愛の精神）に基づき、「世界市民の育成」をめざして努力しているのです。

◇ 編集後記 ◇

「SEQUIMINI ME」第47号にご寄稿いただいた方々に心から感謝いたします。また、このチャペル・ニュースを通して、チャペルへの興味を持っていただければと願っております。

(大学チャプレン 司祭 ヤコブ 松平 功)

「SEQUIMINI ME」桃山学院大学チャペル・ニュース第47号

2014年12月発行

発行所 桃山学院大学キリスト教センター

〒594-1198 大阪府和泉市まなび野1番1号

TEL 0725-54-3131

発行日：2014年12月1日



キリスト教センター 新スタッフのご紹介



小寺香織氏（こてら かおり） 本年4月1日付で本学キリスト教センター事務局に配属されました。キリスト教センターの働きについては、まだまだ分からないことばかりですが、努力してまいりたいと思っております。どうぞ、よろしく願いたします。

桃山学院大学キリスト教センター

〒594-1198 大阪府和泉市まなび野1番1号

TEL 0725-54-3131

FAX 0725-54-3210